

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	(株) クラ・ゼミ こどもサポート教室「きらり」四日市校		
○保護者評価実施期間	2025年11月11日 ～ 2026年1月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年11月11日 ～ 2025年12月20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育のため、ご本人の課題に取り組みやすく、保護者とも情報共有を行いながら、関係性を丁寧に築くことができる。	保護者には送迎をお願いしているため、日常的な会話の中で困りごとや心配事を聞き出し、必要に応じて事業所内相談につなげています。 ご本人には、行動観察を行いながら、課題への取り組み姿勢や取り組むべき課題、今後挑戦していきたい課題を明確にしながら支援を進めています。	指導員の知識や技術の向上を図り、より高いレベルの療育を提供しています。また、保護者対応の充実を目指し、事業所内相談の活用方法の見直しや、保護者会の企画・実施などを行います。
2	発達障害や自閉症についての知識だけでなく、それぞれの特性にどのようにアプローチしていくかを理解したうえで、療育を提供できる。	社内研修だけでなく、外部研修にも積極的に参加し、指導員としての知識や技術の向上に努めています。また、ご本人に関する情報は職員間で密に共有し、日々の様子や変化を丁寧に報告することを心がけています。その上で、共有した情報をもとに、課題内容や取り組むねらいについて職員間でじっくり相談し、より効果的な支援方法を検討しています。	今後も研修には積極的に参加していきます。社内には、近隣の事業所で働く指導員と交流できる研修があり、こうした場を活用して情報共有や意見交換を行い、新たな知識や技術を身につけられるよう意識して取り組んでいきます。
3	ブラジル人指導員がいることで、ポルトガル語での療育だけでなく、制度の説明や就学相談などについても、分かりやすく丁寧に説明できる。	ブラジル人の指導員にも、制度や仕組みについて理解してもらえよう、翻訳を活用して研修を行っています。また、わかりやすく説明することで、指導員自身が理解した内容を保護者に還元できるよう意識しています。こうした取り組みにより、職員間で情報の共有や理解が円滑に進むよう努めています。	ブラジル人指導員に向けた研修の機会が少ないため、研修に参加できる回数に差が生じています。今後は、日本人指導員が受けた研修内容についても、翻訳アプリなどを活用して情報共有を行い、指導員全員が学んだ内容を活かせるようにしていきたいと考えています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会が確保できていない。	事業所のスペースが限られていることから、大規模な行事を開催することが難しく、地域交流の機会を十分に設けることができない状況です。また、具体的にどの内容が国の定める地域交流に該当するのか、その判断や解釈についても定期的に検討する必要がある、対応が難しいと感じています。	当事業所が地域の1事業所であることを理解していただくための活動が必要です。まず事業所の取り組みや特色を知っていただくことで、地域の方々との交流につなげていきたいと考えています。
2	事業所のスペースが限られており、体を動かす活動に制限がある。	当事業所は賃貸物件であるため、大規模なリフォームを行うことは難しい状況です。また、可能な限り地域を変更せずに移転したいと考えていますが、条件に合う物件が見つからず、移転も容易ではありません。	指導員間で定期的に打ち合わせを行い、環境整備に取り組んでいきます。怪我なく療育を行っている状況を、今後も継続して、できることを丁寧に実施していきたいと考えています。
3	ご家族で参加できるようなイベントや保護者会などを行えていない。	感染症予防の観点や、事業所のスペースが限られていることから、保護者やきょうだいの方に参加していただけるイベントを開催することは難しい状況です。そのため、保護者同士の交流や関わりの場を十分に提供できておりません。	会社や近隣の事業所と相談を重ねながら、今後のイベント実施について検討していきたいと考えています。安全面や感染症対策に十分配慮しつつ、参加者が安心して参加できるよう進めていきます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」四日市校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数

14

回収数

12

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	3	1	0		施設のスペースには限りがあることを前提に、利用者の安全や快適さを確保できるよう環境整備や動線の工夫を行っています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	1	2	0	事業所全体と考えると先生が増えると思います。	人員については法令を遵守しており、過不足は生じておりません。また、定員を遵守するために、適切な調整を行っております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	0	1	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9	2	1	0		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	1	0	1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11	1	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	2	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9	3	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	1	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5	2	2	3		現在、地域交流は十分に行えていない状況です。今後は、実施の可能性や方法について検討を重ね、地域との関わりを深められるよう取り組んでまいります。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	1	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	2	1	2		フィードバックの場で提案を行うなどの対応はしていますが、保護者会などを通じた機会は十分に提供できていないため、今後はその実施について検討していきたいと考えています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	11	0	1	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	2	1	0		今後も、情報共有や連携を大切にしながら、お子さまに最適な支援が提供できるよう努めてまいります。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	1	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	3	1	2		コロナ以降、感染症対策を考慮したこともあり、イベントの開催機会は減少しています。今後は、安全面に配慮しながら、イベント実施に向けた検討や話し合いを進めてまいります。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	0	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	1	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	1	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	1	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	2	0	0		訓練に関する情報は、SNSやおたよりを通して周知してまいります。確実に情報が届くよう、適切な方法で発信していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	2	0	0		計画は策定されていますが、周知が十分でない状況です。今後は、周知方法を検討し、確実に情報が伝わるよう努めてまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	2	0	1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10	2	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9	1	1	1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	11	1	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」四日市校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守したスペースを確保しています。レイアウトの変更を行い、より良い環境づくりを目指しています。	事業所が狭いので、他のお子さんの活動の音や声が気になることがある。さらに良い環境にするため、指導員間で話し合っていきたいと思います。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で必要とされている配置は常に行えています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		手を洗うところが2階にしかないなどの問題がありますが、指導員が必ず付き添っています。	トイレや水場を1階に移動させることが難しいので、継続して移動の際は常に付き添います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		掃除の時間を設けているだけでなく、一時間の活動後は汚れている箇所がないかを確認しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別支援を行っているので、個別で過ごせる部屋はあります。	
業務改善	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		打合せを行い職員間で業務について確認をしています。	業務分担について、改めて職員間で打合せを行います。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年評価をお願いし、その結果をもとに業務改善を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		利用されているお子さんがいない時間帯に意見交換を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	保護者様・事業所内の評価結果から業務改善につなげることはできている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月1回以上の研修が設けられています。また、社内だけではなく外部の研修にも参加をしています。	外国籍の指導員が参加できる研修が少ないので、日本人が参加した研修に関しても情報を共有していきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムについては、公表を行っています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを行い、状況を確認したうえで計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		モニタリングだけでなく、情報共有も行うことで、共通認識を持てるようにしています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		原案の段階で職員間の意見をすり合わせ、本計画を作成したうえで、計画に沿った支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートについては、統一して使用しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		より具体的に内容を記載することで、保護者様にも伝わりやすく指導員も適切な支援がしやすいよう、表現には気をつけて作成しています。また家族支援などについても将来を見据えた内容を説明しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々の療育の内容や、共通した利用者様への対応など、確認をして進めています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		効率的に楽しく学んでいただけるように、個人に応じた療育内容を考えております。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別で培った力を小集団で確認をし、新たな課題が見つければ個別で対応をするというサイクルを実現させています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		来所される利用者様を確認し、役割分担や予定を確認しています。	お子さんが安全に過ごすことができるよう、定期的に役割分担について話し合いを行います。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	当日に話し合う時間が設けられないことが多いので、翌日に打合せを行い情報共有をしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援終了後は記録をとり、様子や成長の変化に合わせて指導内容や方法を更新しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月に1度モニタリングを行い、見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管を基本としていますが、担当指導員も参加できる際には参加させていただいております。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		連携を行うことで子どもに対する共通理解を得ることができるため、意識して連携を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		特に就学前の連携については丁寧に行い、よりよい生活につながるよう情報共有を心がけております。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の方のご希望がある場合には、学校にお伺いして情報共有を行い、より良い学習保障がなされるよう工夫しております。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)			情報共有だけでなく、見学などにも積極的に参加し、センターでの取り組みを把握できるようにしています。また、相談も含めて助言を受けるようにしています。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	個別支援を基本としているため、交流の機会を設けることが難しいです。	変更しないといけない点が多くありますが、実現に向けて検討を重ねてまいりたいと考えております。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		療育後はフィードバックの時間を設けて説明をしています。SNSも利用して、保護者の方に写真や動画を共有しています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家庭でも行っていただくことができる活動については情報を提供しています。情報を提供できるように指導員が研修に参加しています。	さらに、情報提供に役立てられるよう、多くの研修に積極的に参加していきたいと考えています。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時の説明だけではなく、書類を事業所内に提示しています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		意見の相違がないよう、子どもの立場に立って話を進め、子どもの気持ちや思いを代弁しながら対応しております。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画作成後に確認をさせていただき、口頭での説明も行ってあります。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		フィードバックだけでなく、必要に応じて保護者の方に来ていただき、お話を聞かせていただいております。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	感染症のリスクがあるため、集団でのイベントは行えておりません。	イベントや会の開催に向けて検討していきたいと思います。安全に配慮した内容にするため、職員同士で話し合いを重ねていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れをいつでも受けられるよう体制を整え、迅速かつ適切に対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		今年度からInstagramを開設して、保護者の方に活動の様子をお伝えしています。	ブログ・きらりだより・Instagramを活用して情報発信を行い、活動の周知をさらに進めていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報が記載された書類は鍵付きの書庫で保管し、個人情報が確認できる端末にはパスワードを設定しています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用者様の母国後に応じて、適切な意思の疎通や情報伝達を行っております。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	事業所の面積や予算の都合上、地域住民を行事に招待することはできていないが、三重県の事業所で行事企画を行いました。	現在、地域交流は十分に行えていないため、交流の機会が得られるよう検討を進めていきたいと考えています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成し、それに基づいて研修や訓練を実施しております。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		訓練を行い、事業所内にその様子を掲示しています。	まだ十分に周知されていないため、今後はSNSも活用して情報発信を行ってまいります。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時にフェイスシートを記入いただき、状況を把握しています。併せて、てんかん発作への対応方法についても周知しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食べ物を提供することがありませんが、アレルギーについては保護者の方に確認を行っております。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		計画を作成し、毎月訓練や整備を行うとともに、机や椅子のねじの緩みも確認しております。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		計画の実施後は、SNSなどで写真を掲載し、活動内容の説明を行っております。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットの事例が発生した場合は、報告書を作成し、保管するとともに職員間で共有しております。	職員間での共有だけでなく、意見交換の場も積極的に設けていきたいと思っています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		マニュアルを作成したうえで研修を実施しております。県主催の研修には必ず参加しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束をする場合、保護者様に十分な説明をして個別支援計画に記載します。契約時にも重要事項説明書ヲ使用して説明を行っております。	